

令和5年度第3回伊賀地域高等学校活性化推進協議会

令和6年2月26日

配 付 資 料

- 令和5年度伊賀地域高等学校活性化推進協議会委員名簿・・・・・・・・・・ P 1
- 【資料1】
令和5年度第2回伊賀地域高等学校活性化推進協議会の概要・・・・・・・・ P 2
- 【資料2】
伊賀地域の県立高等学校(全日制)の入学者選抜の状況(令和6年度)・・ P 5
- 【資料3】
地域の中学生・保護者を対象としたアンケート調査の実施について・・ P 6

【別冊資料】 令和5年度伊賀地域高等学校活性化推進協議会のまとめ（案）

令和5年度伊賀地域高等学校活性化推進協議会 委員

区 分	所 属 等	氏 名
学識経験者 (1名)	三重大学大学院 地域イノベーション学研究科 准教授	か とう たか や 加 藤 貴 也
有識者 (4名)	上野都市ガス株式会社 取締役保安工務部長	にし がき ひろ なお 西 垣 浩 尚
	中外医薬生産株式会社 管理本部マネージャー	かじ もと けん た ろう 梶 本 健 太 郎
	株式会社アサネットワーク 代表	い しゅう もと ゆき 伊 集 基 之
	オキツモ株式会社 経営管理部総務課長	か とう こう し 加 藤 幸 司
P T A関係者 (5名)	伊賀市P T A連合会 顧問 (伊賀市立城東中学校P T A)	きよ す たか ひろ 清 須 貴 博
	名張市P T A連合会 顧問 (名張市立北中学校P T A)	きた がわ しょう じ 北 川 昌 司
	伊賀地区県立学校P T A協議会 会長 (名張青峰高等学校P T A会長)	さか もと のぶ ひと 坂 本 信 人
	伊賀市内県立学校P T A 代表 (上野高等学校P T A会長)	にし だ けん いち 西 田 賢 一
	名張市内県立学校P T A 代表 (名張高等学校P T A会長)	あん どう み ほ穂 安 藤 美 穂
市教委教育長 (2名)	伊賀市教育委員会 教育長	たに ぐち しゅう いち 谷 口 修 一
	名張市教育委員会 教育長	にし やま よし かず 西 山 嘉 一
小中学校長代表 (2名)	伊賀市小中学校長会 代表 (伊賀市立崇広中学校 校長)	ふた い ひで お夫 二 井 英 夫
	名張市小中学校長会 代表 (名張市立赤目中学校 校長)	やま もと かず ひろ 山 本 和 弘
教員代表 (2名)	小中学校教員 代表 (名張市立比奈知小学校 教諭)	やま ぐち てつ や 山 口 徹 也
	高等学校教員 代表 (名張青峰高等学校 教諭)	ふじ たか てる や 藤 高 照 也
県立学校長代表 (3名)	名張高等学校 校長	ほり まき ひろ 堀 昌 弘
	あけぼの学園高等学校 校長	つ げ みつ じ 柘 植 三 治
	名張青峰高等学校 校長	みず もり さと し 水 守 智 士

計19名

令和 5 年度第 2 回伊賀地域高等学校活性化推進協議会の概要

- 1 日時 令和 5 年 1 0 月 3 0 日（月） 1 9 時 0 0 分から 2 1 時 0 0 分まで
- 2 場所 三重県伊賀庁舎 大会議室
- 3 概要

地域の少子化がさらに進行し、令和 4 年度に生まれた子どもたちが高校へ入学する 15 年先には、伊賀地域における 1 学年の総学級数が、現在の 25 学級規模から 12～14 学級規模となることを見込まれる中、当協議会の「令和元・2 年度の協議のまとめ」や令和 3 年度以降の協議をふまえた県立高校の学びと配置のあり方と、令和 10 年度頃までに想定される段階的な学級減への対応の方向性について協議しました。

主な意見は次のとおりです。

≪県立高校の学びと配置のあり方について≫

【学校規模について】

- 伊賀地域として 5 校を維持し学びの選択肢を残すために、各学校が魅力化に取り組み、伊賀市も伊賀鉄道の通学定期券購入費の一部助成を行ってきたが、地域全体の入学者数の増加には現状では結びついていない。今回の署名による要望（あけぼの学園高校の存続と伊賀地域の 5 校の維持）を、県教育委員会としてどのように受け止めているのか。
⇒（事務局）それぞれの学校を大切に思い、応援していただくのはありがたい。要望については、地域協議会において委員の皆さんのご意見を伺いながら、県として判断したい。
- 15 年後に全体で 10 学級減となると、各学校ともそれぞれ 2～3 学級の減となる。その影響についてどのように考えるのか。
⇒（事務局）子どもの数が減る中で、すべての学校を残そうとすればそれぞれが小規模化することになる。個別の学校をどうするかではなく、隣接する地域も含めた地域全体で総合的に議論を進める必要がある。
- 紀南地域の新しい高校は、普通科と総合学科を持つ校舎制の学校になると聞いている。校舎間の距離などの課題もある中で、2 校舎をどのように運営していくのか。
⇒（事務局）紀南地域では、令和 7 年度に地域全体の 1 学年あたりの総学級数が 5 学級となることをふまえ、学びと配置のあり方について協議を行った。統合して 5 学級の単独校とすべきという意見もあったが、2 校がこれまで取り組んできた学びの継続や通学についての地域の意見などをふまえ、校舎制とした。校舎間は車で 15 分程度の距離であるが、公共交通機関での移動が難しいため、バスを利用した生徒の移動を検討している。
- 令和 10 年度までは、5 校を維持し、小規模校を存続することにより子どもたちの多様なニーズにできる限り応えていくことが望ましい。一方で、これ以上普通科を減らすと進学指導に影響が生じたり、専門学科を減らすと現在ある学科がなくなったりする影響を危惧する。
- 学級減によって教員数が減ることにより、担任を含めた校務の兼務が必要となり、その結果、子どもに向き合う時間の確保が難しくなる。同様に、部活動顧問の兼務も必要となり、専門性の高い指導者の配置も難しくなる。また、部員数の減少により、団体競技では

合同チームで大会に出場することとなり、合同練習のために保護者による送迎や交通費の負担が必要となる場合もある。このような各学校が小規模化することのデメリットを考慮して協議を進める必要がある。

- 一定の学級規模がないと、多様な授業を展開できず、その結果、生徒の進路実現に影響が出ることを懸念している。
- 大学入試において推薦入試や総合型選抜が拡大し、部活動の成績や活動実績を生かして進学するケースも増えているため、ある程度、部活動の量と質を保障できることが望ましい。また、学級規模が小さくなると、生徒の理解度に応じた授業展開が難しくなったり、理科や芸術科目等において専門の教員が常駐できず、その分野に進学したい生徒に十分な指導を行うことができなくなったりする。こうしたことから、生徒の進路実現のためには、一定の学級規模があったほうがよい。
- 大企業と中小企業が異なるように、学級減に伴い教員数が減少しても、校務のやりようはあるのではないか。また、合同チームは上位大会に出場できないと言うのではなく、出場できるよう働きかけることも必要ではないか。
⇒ (事務局) 合同チームについては、全国高体連においてもいくつかの競技で全国高校総体への参加が認められるようになってきている。
- 現在と同じような学びの選択肢や単独校で部活動ができる環境を、これからの子どもたちにもできるだけ維持してもらいたい。
- 子どもたちの選択肢はたくさんあったほうがよいと考えていたが、小規模校になったときに、入学する子どもたちにとって豊かな学びとなるのかを考えると悩ましい。ただ、統合することとなっても、現在の5校の魅力や担っている役割は、何らかの形でこれからの子どもたちにも残したい。
- 文科省の資料によると、小規模校にはメリットもあるが課題も多い。また、施設の維持管理にもかなりの費用がかかることから、最低6学級できれば7学級を維持できるよう統合していくことが望ましい。今後の5年間は、できる限り5校を維持しつつ、新たに6学級を下回る規模の学校が生まれるときには5校の再編もやむを得ないのではないか。

【進路指導の視点から】

- 中学校では、高校への入口だけでなく3年後の出口も意識した進路指導を行っており、伊賀地域にどのような学びをどのような形で残すかを議論の柱とすべきである。
- 近くに学校があり学びの選択肢が多いほど、地域に根付く人は多くなるのではないか。
- 労働人口が大きく減少し、採用活動が難しくなっている中で、地元採用した方は長く勤めていただけることが多く、地域の大きな力になっている。どのような人材を育てるかは、地域の企業にとっても大切なテーマである。

【通学の利便性の視点から】

- 校区が決まっている小中学校とは異なり、高校の配置は生徒の通学状況もみながら議論する必要がある。

- 普通科を希望する生徒にとって、通学時間や通学費は高校を選択する大きな要素となっており、近鉄沿線の名張市から津方面への流出は今後も続くと考えられる。当地域の普通科の改革に取り組み、もっと魅力を高めてもらいたい。

【地域づくりの視点から】

- 地域から学校がなくなるのは、まちづくりの視点からも深刻な問題である。そうした中、県内でも試験的に実施されている同時双方向型の遠隔授業や、通信制高校のサテライト教室は、この地域でも早期に取り組んだほうがよい。学校の活性化は、現在の延長線上ではなく、15年先をできるだけ想像し、逆算して考えることが大切である。
- 母校がなくなりさびしい思いもあるが、当時の友人とのつながりは永遠に続く。学校自体はなくなったとしても母校は心の中に持ち続けることができる。

《今後の協議の進め方について》

- 15年先に12～14学級規模になるとすると、いずれは伊賀地域だけでなく県全体で枠組みを考えなくてはいけない時期がやってくる。このことから、令和10年度頃までと15年先の議論は分けたほうがよい。
- 学びの主体である子どもたちにアンケートを実施し、その結果を重視してほしい。
- このまま少子化が進めば、いずれは伊賀地域に高校が1つしかないことにもなりかねない。学校の活性化だけでなく、当地域の少子化に対する協議会としての意見も県に伝えてはどうか。

伊賀地域の県立高等学校（全日制）の入学者選抜の状況（令和6年度）

資料2

高校名	学科・コース名	R6 募集定員	R5.12 希望者数	前期選抜等			後期選抜				再募集			合格者 総数	入学者数	欠員
				募集人数	志願者数	合格 内定者数	募集人数	志願者数 (最終)	志願倍率	合格者数	募集定員	志願者数	合格者数			
上野	普通	200	163	/	/	/	200									
	理数	40	76	20	74	20	20									
	計	240	239	20	74	20	220									
あけぼの学園	総合学科	80	74	40	73	44	36									
				4	0											
伊賀白鳳	機械	35	35	18	33	20	106									
	電子機械	35	31	18	33	20										
	建築デザイン	35	40	18	40	20										
	生物資源	35	21	18	21	18										
	フードシステム	35	43	18	44	20										
	経営	30	39	15	40	17										
	ヒューマンサービス	35	26	18	28	19										
計	240	235	123	239	134	106										
名張	総合学科	200	217	100	225	108	92									
	普通	200	180	60	176	66	134									
名張青峰	文理探究コース	40	34	20	34	22	18									
	計	240	214	80	210	88	152									
伊賀地域計		1,000	979	367	821	394	606									

【参考】今後の入学者選抜の日程(県立・全日制)
 ・後期選抜の願書受付期間 2月22日(木)~28日(水)
 ※志願変更期間 3月4日(月)~6日(水)
 ・後期選抜の検査 3月11日(月)
 ・合格者の発表(前期選抜等を含む) 3月18日(月)

※「R5.12希望者数」は、県内の国公立中学校3年生を対象に実施された進路希望状況調査による。
 ※あけぼの学園の上段は前期選抜、下段は特別選抜

地域の中学生・保護者を対象としたアンケート調査の実施について

- 調査主体：伊賀地域高等学校活性化推進協議会
- 調査形態
中学生：一人一台端末でL o G oフォームを活用した生徒アンケートを実施
保護者：市教委から中学校、生徒を通じて紙媒体アンケートを配付・回収
- 調査対象者
中学生：伊賀地域(伊賀市、名張市)の公立中学校に在籍する2年生全員
約1,350人
保護者：同上の保護者
- 調査期間：令和6年9月頃

参考：令和4年度 伊勢志摩地域の中学生・保護者を対象としたアンケート調査

- 調査主体：伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会
- 調査形態：
中学生：一人一台端末のC B Tシステム利用による生徒アンケートを実施
保護者：市町教委から中学校、生徒を通じて紙媒体アンケートを配付・回収
- 調査対象者
中学生：伊勢志摩地域の公立中学2年生全員
(伊勢市・鳥羽市・志摩市・度会町・南伊勢町・玉城町・大紀町)
保護者：同上の保護者
- 調査期間：令和4年10月中旬～11月11日(金)
- 回答者数
中学生：1,538人／1,702人(回収率90.4%)
保護者：1,391人／1,692人(回収率82.2%)

伊勢志摩地域の中学2年生のみなさんへ

令和4年10月 伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会

1 あなたは、どこに住んでいますか。次から1つ選んでください。

- ① 伊勢市 ② 鳥羽市 ③ 志摩市 ④ 度会町 ⑤ 南伊勢町 ⑥ 玉城町 ⑦ 大紀町

2 あなたの学校の2年生は何人ですか。次から1つ選んでください。

- ① 20人以下 ② 21～40人 ③ 41～80人 ④ 81～120人
 ⑤ 121～160人 ⑥ 161人以上

3-1 あなたが高校を選ぶとき、学習面で重視することは何ですか。1つ選んでください。

- ① 大学進学につながる学力向上を目指した学習ができる
 ② 就職につながる専門的な知識や技能、資格が習得できる
 ③ 進学や就職など多様な進路に応じた学習を選択することができる

3-2 あなたが高校を選ぶとき、学校生活全般で重視することは何ですか。4つ以内で選んでください。

- ① 確かな学力を身につける授業が充実している ② 地域に密着した活動がある
 ③ 文化祭や体育祭などの学校行事が充実している ④ 入りたい部活動がある
 ⑤ 多くの友だちや先生と出会うことが期待できる
 ⑥ 一人ひとりに目が行き届きやすく、きめ細かな教育が期待できる
 ⑦ 通学しやすい
 ⑧ その他（3-3の自由記述へ）

3-3 3-2で「⑧その他」を選んだ人は、重視する内容を書いてください。

4-1 あなたは高校に、どのような教育を期待しますか。5つ以内で選んでください。

- ① 自ら学び続ける力が身につく教育 ② 自分の将来を選択する力が身につく教育
 ③ 地域について学ぶ教育 ④ 人権に対する意識が高まる教育
 ⑤ 基本的な知識が身につく教育 ⑥ ICTを積極的に活用する教育
 ⑦ 広く世界で活躍できる力が身につく教育
 ⑧ 社会性や協調性、コミュニケーション能力が身につく教育
 ⑨ 社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育
 ⑩ 特別活動や部活動などを通じて豊かな人間性が身につく教育
 ⑪ その他（4-2の自由記述へ）

4-2 4-1で「⑪その他」を選んだ人は、期待する内容を書いてください。

5-1 高校の学級は40人1学級を基本としています。あなたが進学するとしたら、1学年あたりどのくらいの学級数(人数)の高校に入学したいですか。次から1つ選んでください。

- ① 1学級～2学級(～80人)
- ② 3学級～4学級(81～160人)
- ③ 5学級～6学級(161～240人)
- ④ 7学級以上(241人～)

5-2 5-1の学級数を選んだ理由で最もあてはまるものを、次から1つ選んでください。

- ① 友だちや先輩、先生など、多くの出会いがあると思うから
- ② 学習や部活動等で自分の興味・関心にもとづく多様な選択ができると思うから
- ③ 友だちや先輩、先生との関係が深まりやすいと思うから
- ④ 学習や生活面で一人ひとりが先生にサポートしてもらいやすいと思うから
- ⑤ その他(5-3の自由記述へ)

5-3 5-2で「⑤その他」を選んだ人は、その理由を書いてください。

6 あなたは、進学したい(または、進学するとしたら)高校までの通学時間(片道)は、どれくらいまでなら可能であると思いますか。次から1つ選んでください。

- ① 30分以内
- ② 31～60分
- ③ 61～90分
- ④ 91～120分
- ⑤ 121分以上

7-1 小中学校では、自分が住んでいる市町の自然・文化・産業などについて学習してきました。進学するとしたら、高校では地域の学習について、どのように取り組みたいと思いますか。最もあてはまるものを次から1つ選んでください。

- ① 進学した高校が所在する市町について学んでみたい
- ② 進学した高校が所在する市町だけでなく、伊勢志摩地域全体のことについて学んでみたい
- ③ 高校では地域の学習よりも、別の分野について学んでみたい
- ④ その他(7-2の自由記述へ)

7-2 7-1で「④その他」を選んだ人は、地域の学習についてあなたの考えを書いてください。

8 将来(中学・高校・大学等の学校を卒業後)、あなたはどこで生活したり、働いたりしたいですか。次から1つ選んでください。

- ① 地元(現在住んでいる市町)
- ② 地元以外の伊勢志摩地域
- ③ 伊勢志摩地域以外の三重県内
- ④ 県外
- ⑤ 海外
- ⑥ 一度は地元を離れても、いつかは戻りたい
- ⑦ まだ決まっていない、わからない

9 「高校や将来に関するアンケート」の内容に関して、あなたの考えや思いなどを自由に書いてください。

伊勢志摩地域の県立高校に関するアンケート

伊勢志摩地域の中学校2年生の保護者のみなさんへ

令和4年10月 伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会

本協議会では、当地域の県立高校の活性化について協議しており、その中で進学を控える生徒・保護者の方の意見を参考に協議を進めたいと考えています。つきましては、以下の資料を参照のうえ、アンケートにご協力いただきますようお願いいたします。（当地域の中学2年生を対象に、別途、アンケートを実施しています。）

【資料】

○グローバル化やデジタル化などの社会の大きな変化、少子・高齢化のさらなる進行、教育的ニーズの多様化が進む中、令和4年3月に策定した「県立高等学校活性化計画」では、これからの子どもたちにとって魅力ある県立高等学校のあり方や活性化について検討し、実現していくこととしています。

○その中で、15年先までの中学校卒業者の減少の状況等をふまえると、これからの時代に求められる学びを提供していくには、現在の県立高校の配置を続けていくことは難しい状況であるため、各地域の活性化協議会において、高等学校の学びと配置のあり方についての検討を丁寧に進めるとしており、伊勢志摩地域においては、本協議会で検討を進めています。

○令和4年度の伊勢志摩地域の全日制県立高校1年生の総学級数（定員）は、9校10校舎で32学級1,280人となっています。

- ・宇治山田（5学級 200人）
- ・伊勢（7学級 280人）
- ・伊勢工業（4学級 160人）
- ・宇治山田商業（4学級 160人）
- ・明野（4学級 160人）
- ・南伊勢南勢校舎、度会校舎（2学級 80人）
- ・鳥羽（2学級 80人）
- ・志摩（2学級 80人）
- ・水産（2学級 80人）

○令和5年度から19年度までの中学校卒業生数の予測や地域での出生数をもとに、進路状況や他地域との流入などを考慮して学級数を予測すると、現在の32学級から15年先の令和19年度にはおよそ18～21学級と11～14学級減少することが見込まれます。

	令和4年3月	令和10年3月	令和19年3月
中学校卒業生数	1,879人	1,572人	1,199人
総学級数	32学級	24～25学級	18～21学級

※中学校卒業生数：令和10年は予測値、令和19年は地域の出生数

（参考）今年度、これまでの協議会の概要や配付資料については、下記のHPをご覧ください。

第1回協議会（6/8）



（資料）

- ・入学定員と欠員数の推移
- ・市町別の中学生進学先の推移
- ・今後の中学校卒業生の予測と推移
- ・高校生へのアンケート結果 など

第2回協議会（7/5）



（資料）

- ・学科別募集定員の割合
- ・地域の各県立高等学校について など

第3回協議会（8/24）



（資料）

- ・これまでの県立高校の統合
- ・学級規模による教育環境の比較
- ・令和10年度までの地域の総学級数 など

<https://www.pref.mie.lg.jp/SINGI/m0044800070.htm>
<https://www.pref.mie.lg.jp/SINGI/m0044800071.htm>
<https://www.pref.mie.lg.jp/SINGI/m0044800072.htm>

伊勢志摩地域の県立高校に関するアンケート

< 質問 > あてはまる選択肢の番号に○を付けてください。

(現在の居住地はどこですか。)

- ① 伊勢市 ② 鳥羽市 ③ 志摩市 ④ 度会町 ⑤ 南伊勢町 ⑥ 玉城町 ⑦ 大紀町

1-1 お子さんが高校を選ぶとき、学習面で重視することは何ですか。1つ選んでください。

- ① 大学進学につながる学力向上を目指した学習ができる
② 就職につながる専門的な知識や技能、資格が習得できる
③ 進学や就職など多様な進路に応じた学習を選択することができる

1-2 お子さんが高校を選ぶとき、学校生活全般で重視することは何ですか。4つ以内で選んでください。

- ① 確かな学力を身につける授業が充実している ② 地域に密着した活動がある
③ 文化祭や体育祭などの学校行事が充実している ④ 入りたい部活動がある
⑤ 多くの友だちや先生と出会うことが期待できる
⑥ 一人ひとりに目が行き届きやすく、きめ細かな教育が期待できる
⑦ 通学しやすい
⑧ その他 ()

2 お子さんが入学する高校には、どのような教育を期待しますか。5つ以内で選んでください。

- ① 主体的に学び続ける力を育む教育
② 進路選択の力を育む教育
③ 地域と協働しながら課題解決力を育む教育
④ 人権意識を高める教育
⑤ 学び直しや基本的な知識の習得ができる教育
⑥ ICTを積極的に活用した教育
⑦ グローバル社会で活躍できる力を育む教育
⑧ 社会性や協調性、コミュニケーション能力を育む教育
⑨ 社会人として必要なマナーや礼儀・責任感を身につけることができる教育
⑩ 特別活動や部活動などを通じて豊かな人間性を育む教育
⑪ その他 ()

裏に続きます

3-1 現在の32学級規模から18~21学級規模になると見込まれる15年先の伊勢志摩地域の県立高校について、あなたの意見に最も近いものはどれですか。次の①~③から1つ選んでください。

- ① 地域の高校のほとんどが小規模の高校になっても、統合は避けるべき
- ② 地域に大規模の高校、中規模の高校を配置するために、一定の統合は避けられない
- ③ 地域に大規模の高校、中規模の高校をできる限り配置するために、必要な統合を進めるべき

3-2 ①~③を選んだ理由を記入してください。

4 お子さんが進学したい高校までの通学時間（片道）は、どれくらいまでなら可能であると思いますか。次から1つ選んでください。

- ① 30分以内 ② 31~60分 ③ 61~90分
- ④ 91~120分 ⑤ 121分以上

5 将来（中学・高校・大学等の学校を卒業後）、お子さんはどこで生活してほしいと考えていますか。次から1つ選んでください。

- ① 地元（現在住んでいる市町） ② 地元以外の伊勢志摩地域 ③ 伊勢志摩地域以外の三重県内
- ④ 県外 ⑤ 海外 ⑥ 一度は地元を離れても、いつかは戻ってほしい ⑦ 本人の希望次第
- ⑧ 特に考えはない

6 今後の伊勢志摩地域の県立高校の学びと配置のあり方について、ご意見があればお聞かせください。

当アンケートにかかるご質問等がございましたら、下記までご連絡ください。
（事務担当） 三重県教育委員会事務局 教育政策課 059-224-2951（平日 9:00~17:00）
ご協力ありがとうございました。